

事業報告書

「はえばるの『男女共同参画』を考える」(出前講座)

日時	2018/11/20 (火) 15:00~17:00
対象	南風原町職員、関心のある方
講師	沖縄キリスト教学院大学 人文学部長 新垣 誠氏
主催	南風原町・沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
会場	南風原町役場 3階 庁議室
定員	一名
参加者数	53名 (男性:23名 女性:30名) 申込者数:63名
開催目的	南風原町の講師派遣依頼に基づく出前講座。南風原町職員、関係者等を対象として、「第二次南風原町男女共同参画計画」への理解を深めると共に、男らしさ女らしさにとらわれることなく自分らしく生きる大切さを学ぶ「ジェンダーを考える教室」を開催することで南風原町の男女共同参画推進につなげるもの。
講演内容 (概要)	<p>沖縄キリスト教学院大学人文学部長であり、現在、南風原町の男女共同参画推進会議会長を務める 新垣 誠 (あらかき まこと) 氏による出前講座。</p> <p>冒頭、南風原町総務部 宮平 暢 (みやひら みつる) 部長から開催のご挨拶として南風原町における男女共同参画推進のために「第二次南風原町男女共同参画計画」通称「まじゅんプラン」が策定されていることを紹介。続いて総務部企画財政課 祝嶺 春俊 (しゅくみね はるとし) 氏が「まじゅん」はうちなーぐちで「一緒」を意味することなどを含め「まじゅんプラン」概要説明を行った。</p> <p>その後の講座で、講師は南風原町の人口推移資料等をもとに、男女共同参画推進会議において「シニア男性のひきこもり」「核家族化が進み、地域交流や人と人との支え合うことが必要とされていること」などが議論されていることを紹介。</p> <p>続いて、多くの映像資料、グループ討議を通して「男はこうだよね、女はこうだよね」というのが「ジェンダー意識」であり、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というのが「ジェンダー規範」であると説明。夫婦のすれ違いの多くは“ジェンダー規範で相手を裁いている”から生ずるということや、「女性は車の運転がヘタクソ」「男性は家事がヘタクソ」と思うのは経験の差と性差によるイメージであり、経験が不足している事柄にはお互いが寛容になる必要があることなどを述べた。</p> <p>ジェンダー規範は「男は立身出世、女は良妻賢母」との教育がなされた明治維新に端を発するが、現在でもメディアや学校における「隠れたカリキュラム」としてジェンダー規範の刷り込みが行われていることから、私たちひとりひとりが自分らしく暮らすためにはこうしたジェンダー規範を振り払い「夫婦円満」な家庭をつくるのが重要であるとした。</p> <p>また、LGBTは一例であり、政策など意思決定の場において多様な視点を反映させることが「男と女が共に支えあう、黄金南風の平和郷」の実現につながると結んだ。</p> <p>プログラムの最後として総務部企画財政課の與那嶺 秀勝 (よなみね ひでかつ) 課長が御礼の言葉とともに誰もが生きやすい社会づくりのために自分ができることをしようと受講者に呼びかけ閉会となった。</p>
	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">與那嶺 秀勝 課長</p> <p>宮平 暢 部長</p> <p style="text-align: center;">祝嶺 春俊 氏</p> <p style="text-align: center;">新垣 誠 氏</p> <p style="text-align: right;">受講風景</p>
参加者の声 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもわかりやすく、映像なども使いながら楽しく参加できました。グループでの話し合いもその後の講話へとつながり、話し合ったことが知識へとつながったような気がします。 ・ものすごく良かった。私の中にはかなりのジェンダー規範があることがわかった。 ・女子マネージャーという存在に何かしら違和感を感じていた理由がわかった気がしました。 ・普段何気なく観るTV、CMの中に「偏見」がまだまだ残っていることに改めて気付いた。 ・おもしろかったです。南風原町内の校内研で是非やってほしいです。必要だと思います。